











二酸化炭素排出などの環境負荷を減らしながら、自然のサイクルや資源を上手に利用し、これからの循環型社会をどのように構築していくのか、森林や里山の保全、林業などの観点から、楽しく学び交流を深めた3日間。参加者は、同時に鳴子温泉への愛着も深めたのではないでしょうか。

今月の表紙

鳴子温泉地域で、皆さんが入浴できる温泉は、50年以上前に降った雨水が、里山から地下深く浸透し、地熱で温められ温泉として湧き出したもので、「自然の循環」がもたらす恵みそのものです。しかし、この自然の循環に欠かせない里山が、今、危機にひんしています。植林後、あまり手を掛けられずにきたため、木と木の間隔が狭く光が届かなくなり、幹も太く育ちにくい現状にあります。

温泉とは切っても切れない、密接な関係にある里山の環境保全を通して、温泉とその文化を守り伝え続けていこうと立ち上げられた、「湯守の森プロジェクト」が主催する「第1回湯守の森会議」が、3月13日~15日の3日間、東鳴子温泉で開催されました。

自然資源を活用したまちづくりを進める岩手県葛巻町の鈴木町 長をはじめ、環境保全活動、林業、教育など、様々な立場で森林や里 山の保全活動に取り組む皆さんによる、ワークショップや講演会、 シンポジウムが行われたほか、伐採した木を馬に運ばせる「馬搬」の 実演も行われました。

森林や里山がわたしたちにもたらす恵みをこれからも大切に長く利活用していくため、学び、体験、交流から、多くの人をつなぎ、鳴子温泉地域のすばらしい自然や温泉を次の世代につないでいくための第一歩が、力強く踏み出されました。









※大崎市は自主財源確保のために有料広告を掲載しています。